



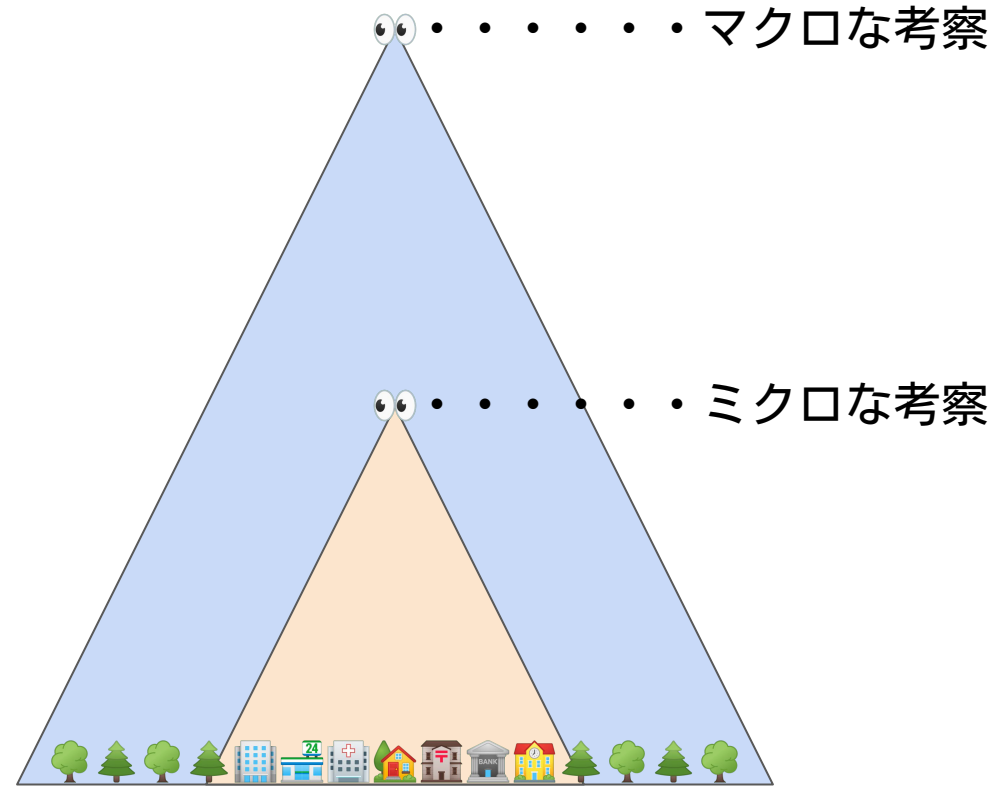
北陸新幹線建設をめぐる 富山県議会の議論にみる スケールの政治

—テキスト分析ツール「KH Coder」を用いて—

地図学的スケール=地図における縮尺



方法論的スケール=研究者の視角

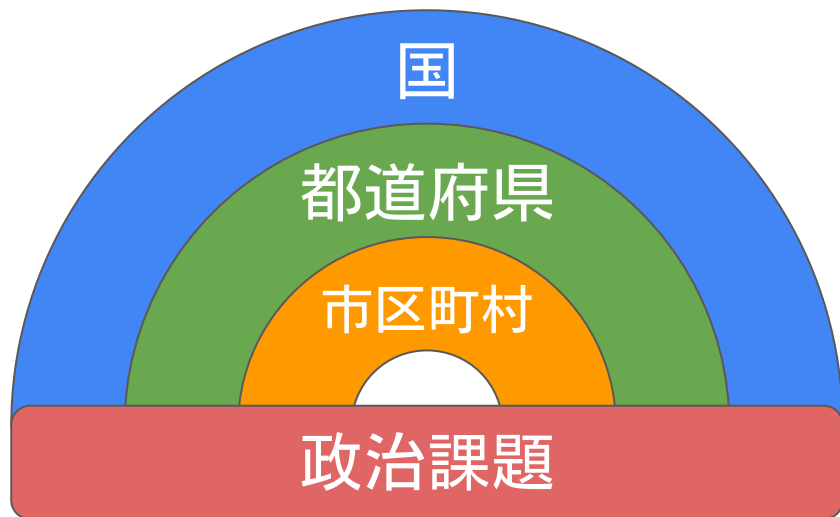


地理的スケール = 社会活動の空間的広がり



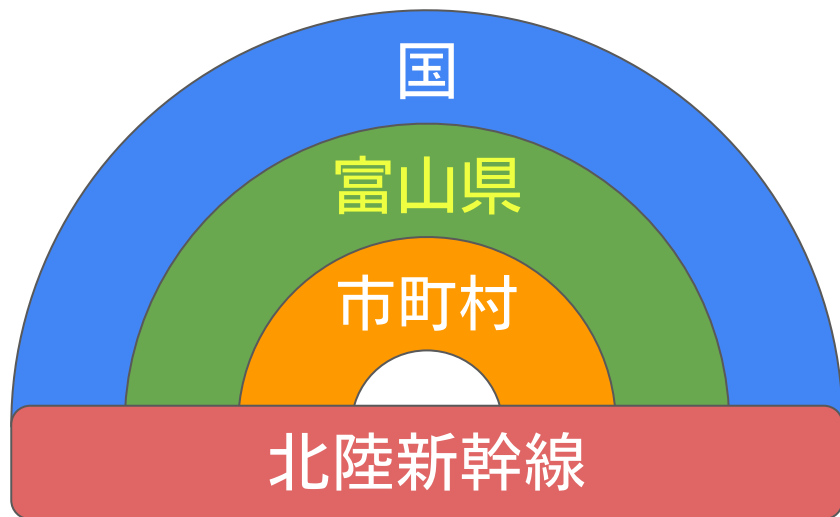
私たちは階層的かつ重層的に構成された地理的スケールの中で生きており，活動形態に応じて地理的スケールを使い分けている。

政治地理におけるスケール



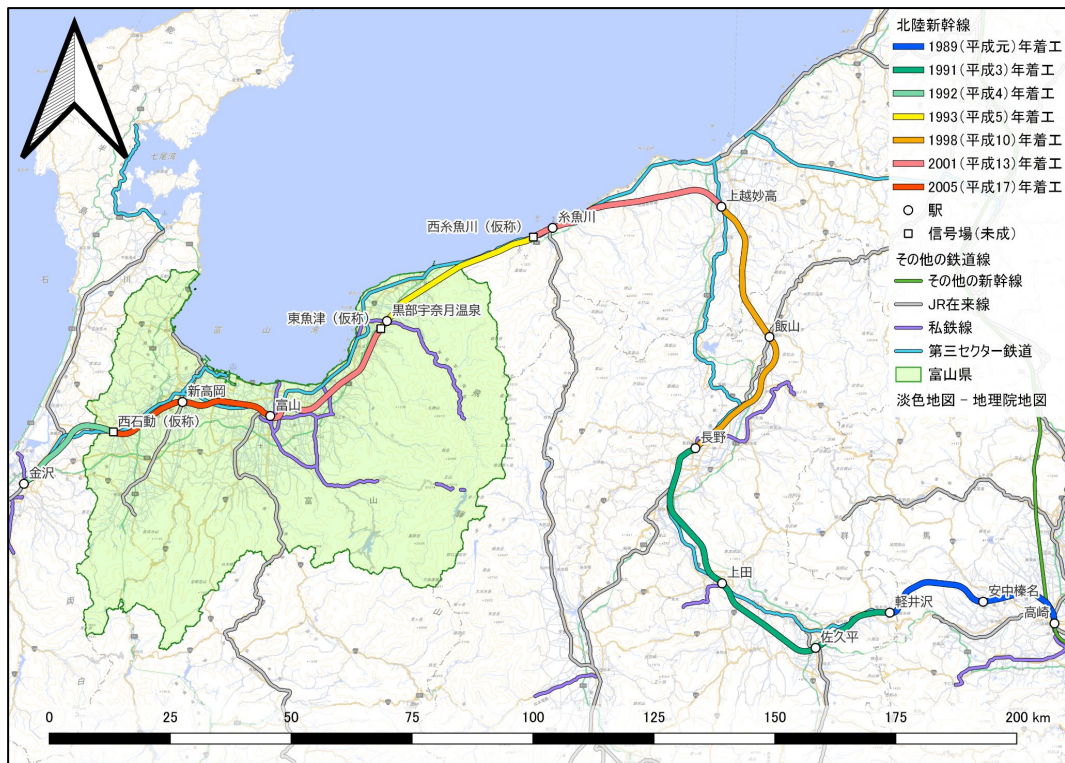
政治においても同様な地理的スケールがあり，スケールを飛び越えた活動（スケール・ジャンプ）や地理的スケールの再編（リスケーリング）が見られる（山崎 2012）。

本研究におけるスケールと研究目的



本研究ではスケールを横断する政治課題の事例として北陸新幹線の建設を選び、富山県議会における議論からテキスト分析を通じてスケールの政治について考察する。

北陸新幹線の建設過程



年次	出来事
1965 (昭和40)年	砺波商工会議所会頭による北陸新幹線構想発表
1967 (昭和42)年	北回り新幹線建設促進同盟会が発足
1972 (昭和47)年	全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画が決定
1985 (昭和60)年	高崎—小松間が認可申請
1988 (昭和63)年	3規格混合による「運輸省案」が提示される
1989 (平成元年)	フル規格にて高崎—軽井沢間が着工
1991 (平成3)年	フル規格にて軽井沢—長野間が着工
1992 (平成4)年	スーパー特急方式にて西石動(仮称)—金沢間が着工
1993 (平成5)年	スーパー特急方式にて西糸魚川(仮称)—東魚津(仮称)間が着工
1997 (平成9)年	高崎—長野間が開業
1998 (平成10)年	フル規格にて長野—上越間が着工
2001 (平成13)年	フル規格にて上越—富山間が着工
2005 (平成17)年	フル規格にて富山—金沢間が着工
2015 (平成27)年	長野—金沢間が開業

北陸新幹線の建設をめぐるには整備方式や建設費をめぐる紆余曲折があった。特に富山県内ではスーパー特急の着工区間変更(金沢—西高岡→金沢—西石動)や高岡駅への新幹線併設問題などが生じた。

テキストデータの抽出と整理 (1/2)

- WEBサイト「[富山県議会 会議録の検索と閲覧](#)」より検索語句を「新幹線」とした上で北陸新幹線に関する質疑と答弁のみを手作業にて抽出した。
 - 抽出期間は北陸新幹線が金沢まで全線フル規格での整備が決まるまでの10年間とした。すなわち1994(平成6)年から2005(平成17)年までである。
- 抽出したデータには発言者の属性(役職・所属政党・出身地)を付加し、テキスト分析ツール「KH Coder」を用いて発言者の属性と発言内容の対応関係を整理した。
 - 役職は知事，県職員，議員の3種類である。
 - 所属政党と出身地は議員のみ付加した。なお1996(平成8)年に社会民主党に改称した日本社会党については，改称前後ともに同一政党として扱った。
 - 出身地は出身地は2004(平成16)年から2005(平成17)年に行われた平成の大合併前の自治体とした。
 - 出身地は具体名に加え，①新幹線および並行在来線の駅がある自治体，②並行在来線の駅のみある自治体，③新幹線駅も並行在来線駅も存在しない自治体の3つに区分した。

テキストデータの抽出と整理 (2/2)

- テキスト分析では強制的に抽出する複合語と不使用語の選定および指定を行った。
 - 議題の抽出に目的とするため、分析に用いる品詞は名詞に限定した。ただし名詞のうちサ変動詞が語尾に接続することで動詞として働くサ変名詞は除外した。
 - 質疑や答弁に多用される「所見」や「状況」といった語も不使用とした。
 - 複合語は可能な限り指定した。これは「新幹線」のみでは「北陸新幹線」や「整備新幹線」の双方を含んでしまうためである。
- テキスト分析の結果を可視化する手段は「KH Coder」の抽出語と外部変数の対応分析と、コーディングと外部変数のクロス集計を用いた。
 - 対応分析は抽出語を外部変数と関連付けて二次平面に布置するもので、原点付近は全体的に満遍なく出現する語が、原点から離れるほど各外部変数に特徴的な語が表示される。
 - コーディングは各コード(=議題)に特徴的な語を予め指定することによりコード単位で出現回数を計上するものである。

コーディングルール

コード	指定語
負担	地元負担，負担，地域負担，県民負担，財政負担，財政難
並行在来線	経営分離，第三セクター，三セク，並行在来線，貨物，上下分離，経営主体，経営方式
枝線	枝線，城端線，氷見線，高山線，高山本線
新高岡駅	新高岡，県西部駅，新高岡駅，現駅，併設，高岡市，県西部
富山駅	富山駅，富山市，連続立体交差事業，都市M I R A I 計画
黒部宇奈月温泉駅	新黒部，新黒部駅，県東部駅，県東部
促進	早期開通，全線開通，早期開業，全線開業，建設促進，促進，早期着工，新規着工，早期，早期全線整備
整備方式	スーパー特急，フリーゲージトレイン，フリーゲージ，ミニ新幹線，フル規格，可変

テキストデータの統計情報（会議・役職）

	会議	文字数
定例会	代表質問	181,731
	総括質問	15,720
	一般質問	212,645
	委員長報告，討論，採決	11,255
委員会	予算特別委員会	229,303
	新幹線総合交通対策特別委員会	119,324
	建設企業常任委員会	68,807
	政策討論委員会	20,882
	経営企画常任委員会	10,733
	総務企画常任委員会	3,927
	農林水産常任委員会	2,038
	決算特別委員会	677
	商工労働常任委員会	517

役職		人数	文字数
知事	知事	2	154,961
	副知事	2	2,340
職員	企画部	2	83,709
	土木部	6	73,601
	新幹線建設課	1	48,505
	企画県民部	1	16,504
	知事政策室	2	2,491
	生活環境部	2	1,881
	財政課	1	1,605
	交通政策課	1	1,303
	農林水産部	2	1,118
	総務部	2	832
	管理課	1	428
議員	環境保全課	1	241
	商工労働部	1	150
	自由民主党	45	252,597
	公明党	2	7,395
	民主党	2	4,150
	社会民主党	9	114,644
	日本共産党	2	46,489
	無所属	3	8,361

1994(平成6)年3月9日の平成6年2月定例会から2005(平成17)年12月20日の平成17年12月定例会に至るまでの合計877,559文字を抽出した。

テキストデータの統計情報（議員）

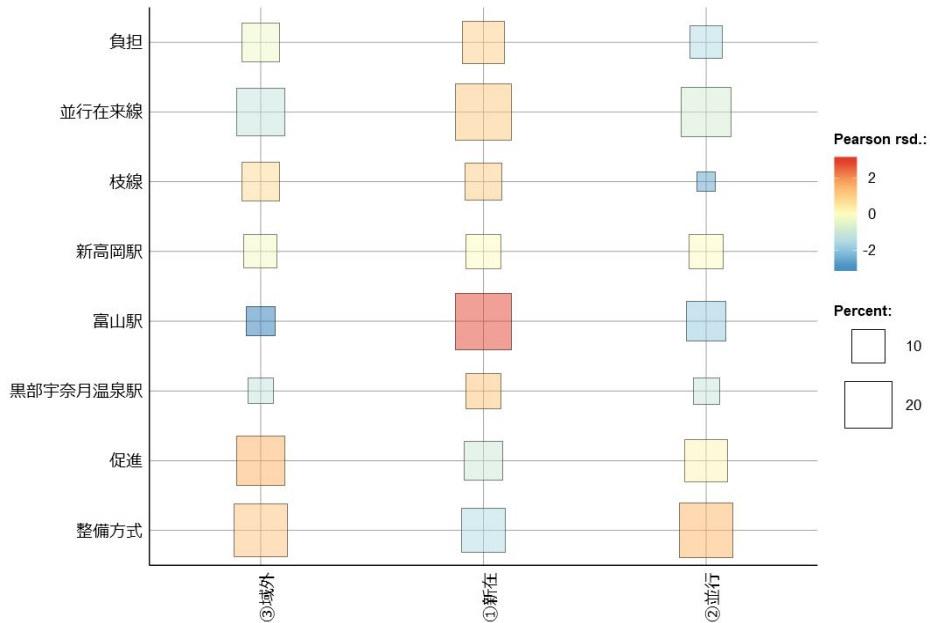
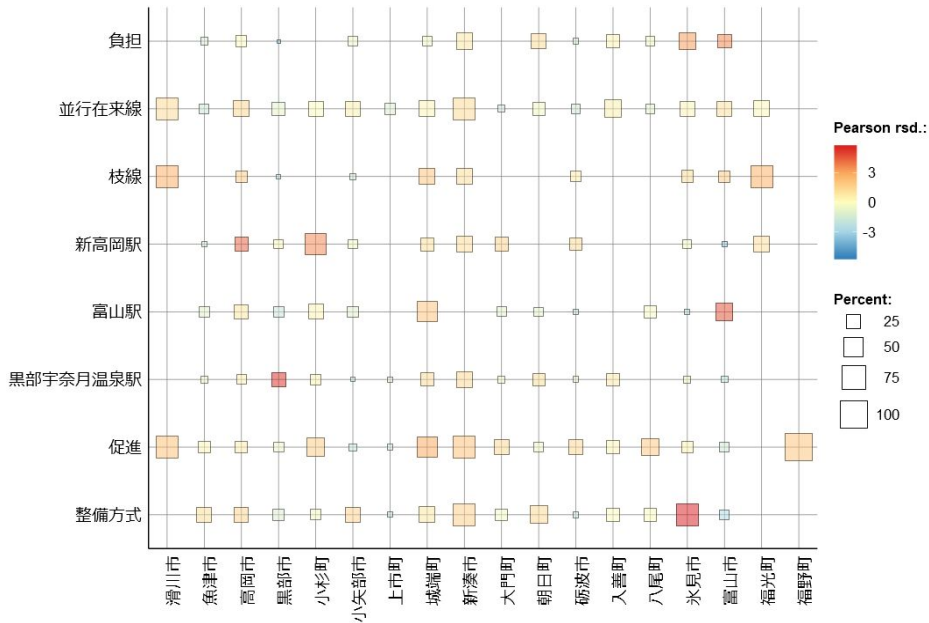
表5 出身地および所属政党別議員人数

人数	①新幹線・並行在来線			②並行在来線						③域外								合計		
	富山市	高岡市	黒部市	小矢部市	魚津市	大門町	朝日町	入善町	小杉町	滑川市	氷見市	砺波市	上市町	城端町	八尾町	新湊市	福光町		大沢野町	福野町
自由民主党	11	6	3	3	3	1	1	2	1	2	1	2	1	2	2	1	1	1	1	45
公明党	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
民主党	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
社会民主党	4	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	9
日本共産党	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
無所属	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
合計	21	10	3	3	4	2	1	2	1	2	2	2	1	2	2	2	1	1	1	63
	34			15						14										

表6 出身地および所属政党別議員発言文字数

文字数	①新幹線・並行在来線			②並行在来線						③域外								合計		
	富山市	高岡市	黒部市	小矢部市	魚津市	大門町	朝日町	入善町	小杉町	滑川市	氷見市	砺波市	上市町	城端町	八尾町	新湊市	福光町		大沢野町	福野町
自由民主党	43,092	40,828	46,440	36,243	13,733	5,110	6,279	5,442	3,342	2,340	2,040	18,628	12,317	7,240	6,247	998	1,473	505	300	252,597
公明党	7,395	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7,395
民主党	3,712	438	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,150
社会民主党	38,133	40,956	0	0	893	0	0	0	0	0	30,515	0	0	0	0	4,147	0	0	0	114,644
日本共産党	46,489	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46,489
無所属	1,463	1,925	0	0	0	4,973	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8,361
合計	140,284	84,147	46,440	36,243	14,626	10,083	6,279	5,442	3,342	2,340	32,555	18,628	12,317	7,240	6,247	5,145	1,473	505	300	433,636
	270,871			78,355						84,410										

出身地(コーディング)



- ①新幹線および並行在来線の駅がある自治体
- ②並行在来線の駅のみある自治体
- ③新幹線駅も並行在来線駅も存在しない自治体

富山市 高岡市 黒部市
小矢部市 魚津市 大門町 朝日町 入善町 小杉町 滑川市
氷見市 砺波市 上市町 城端町 八尾町 新湊市 福光町 大沢野町 福野町

考察(役職)

- 知事

- 新幹線の建設を促進すべく積極的に肯定的な発言をしていた。
- 県、もしくは県を超えたスケールの政治(国への積極的な関与)

- 議員

- 新幹線建設に伴う負の側面について問いたただす姿勢が見られた。
- 県のスケール？(所属政党・出身地についての考察は後述)

- 県職員

- 両者を仲介する存在として議員の質疑に対してひたすら答弁を行っていた。
- 県のスケール。政治というよりは事務的。

考察(議員)

● 所属政党

- 議員発言と所属政党にはある程度の対応関係がある。
- 与党である自由民主党は新幹線建設に対して前向き。
- 野党の日本共産党や社会民主党などは新幹線建設に伴う負の影響を問いただしていた。
 - 国から県へのスケール・ジャンプが見られる。
 - 所属政党のイデオロギー(国スケール)が県のスケールに持ち込まれている。

● 出身地

- 黒部市の「新黒部駅」や富山市の「富山駅」など部分的に当てはまるものの全体として関係性は希薄。
- 出身地(市町村)から県へのスケール・ジャンプはあまり見られない。

まとめ

- テキスト分析を用いることで議会発言からスケールの政治について考察することは可能。
 - 10年間877, 559文字という膨大な量の会議録を客観的に捉えることが出来た。
- テキスト分析のやり方が適切だったのかは要検証。
 - 複合語・不使用語の指定方法やコーディングの語彙選択, 可視化の手段など。
- テキスト分析だけで論じるには限界がある。
 - 会議録や新聞を読み解いて流れを掴んでから補助的に用いる方が効果的だと考えられる。

参考文献

- 鉄道建設・運輸施設整備支援機構鉄道建設本部富山工事事務所 2017. 北陸新幹線工事誌:糸魚川・小矢部間.
- 樋口耕一 2019. 計量テキスト分析における対応分析の活用 ー同時布置の仕組みと読み取り方を中心にー. コンピュータ&エデュケーション 47: 18-24.
- 藤澤和弘 2015. 『北陸新幹線レボリューション 新幹線がもたらす地方創生のソリューション』. 交通新聞社.
- 増田正 2016. 北関東地方における政策課題と地方議会改革:主要7市議会会議録のテキストマイニング分析. 地域政策研究 18(2/3): 33-49.
- 山崎孝史 2012. スケール/リスケーリングの地理学と日本における実証研究の可能性. 地域社会学会年報 24: 55-71.
- 山崎孝史 2022. 『「政治」を地理学する 政治地理学の方法論』. ナカニシヤ出版.